

# 令和 6 年度 事業報告書

学校法人 大村文化学園

# I 法人の概要

## ■建学の精神、教育理念・教育目標

本校は志の高い卒業生を送り出し、業界の役に立ちたいと考えています。その為に少しでも良い教育環境を整えるべく、O.designs・各種検定・デビュープログラムなど、様々な施設やプログラムを準備しています。目標は単に希望する職種に就く為だけではなく、もっと高いところに設定しています。

OMULA の教育目標は「業界を牽引する学生を育成する」です。

本校にとって一番重要なのは学生を立派な社会人に育てる事です。一番大切な存在ですから、お客様扱いをするのではなく、しっかりと教育して立派な人間に育てます。

本校を卒業して業界に出た時に、仕事に専念できるように今のうちからマナーなどを身に付け、皆さんのアイデアやパワーを存分に発揮して欲しい。そして新入社員でありながらも企業にとって重要な人材になって欲しいと思っています。

本校の特徴は、教育理念「一に人格二に技術」にのっとった人格形成と、回数理論に裏打ちされた技術教育を徹底的に行うことです。学校カリキュラムには様々な課題・イベントを用意しています。積極的に取り組み、優れた人格と技術を身に付け、立派な社会人になって卒業して欲しいと思っています。

カリキュラムの中には検定や資格試験も含まれています。しかし資格取得は大きな目標ではあっても、あくまでも自分の夢への通過点です。自分の夢に向かって進む為に、社会に出た後に「どんな自分になりたいか」を明確にし、それに向かって努力をする意識を持つことが一番重要です。その意識を持たないと資格取得がゴールのような気持ちになってしまいます。

そして意識をした努力を続ける過程で「夢」は少しづつ形を変え、より具体的なものに進化するはずです。そこまで行ったらもう夢実現はすぐそこです！

学校生活を通して目指す業界を学生に深く知ってもらい、その中で自分はどのようにお客様や、業界の方々とかかわりながら生きていくのか。本校で努力することの楽しさ、こだわりを高く持つことの有意義さを、学生に体験してもらい身に付けます。

## ■学校法人の沿革

【法人の設立】 平成4年3月31日 学校法人の設立認可(福岡県知事より)  
平成4年4月2日 法人登記の成立

【学校の設置】 平成4年4月1日 専修学校「大村美容専門学校」を設置  
※それ以前は各種学校「大村美容専門学院」として昭和29年に開校

## 【沿革】

- 昭和 4年 現理事長の祖母である大村トミが、福岡市新大工町(現在の唐人町)に福岡で2番目の洋髪専門店として、恩師マリールイズの頭文字をいただいてML美容院(後にML美容室に変更)を開設。  
大村トミに教えを請いたいと願う者が年々多数にのぼり、後の学校設立へと繋がっていく。
- 昭和20年 学校の全身となる大村美容研究所を創設。美容師の技術指導を本格的に始める。
- 昭和29年 福岡市東唐人町(現在の唐人町)に、福岡県知事の承認を得て大村美容専門学院を創立。  
同年5月厚生大臣により美容師養成施設の指定をうけて美容技術の訓練のみに止まらず、全人格的教育を目指した美容師養成を展開した。
- 昭和40年 福岡市黒門へ校舎を新築移転。  
合わせて定員を増加し、業界ならびに入学希望者の要望に応えると共に改めて厚生大臣指定を受ける。  
その後も校舎の拡張を行って教育環境を整備し、教育内容も現代の潮流に即応できる体制を整えて、美容界への有能な人材供給の努力を継続しつつ現在に至っている。
- 昭和59年 入学資格を高校卒業以上に設定。技術だけでなく人間形成にも力を入れるため、一定の年齢と経験を必要とした。
- 平成 4年 学校法人大村文化学園を設立。  
(設立時の理事長は大村統)  
それにともない、大村美容専門学院を専修学校大村美容専門学校へ改組。
- 平成 6年 メイク専科(現在のメイクアップ科)を設置。
- 平成 8年 メイクアップ専科を2年制に移行。  
美容師法の改正により、美容学校への入学資格が高校卒業以上、修業年限が2年となるが、先を見て既に変更をしていたため、体制の変更は必要なかった。
- 平成10年 美容師法改定により、大村美容専門学校の定員増。  
それに合わせて、校舎を増築。(1. 2号館)
- 平成11年 福岡市中央区大名にオムニススタジオを設置。  
法人が運営する美容室を設置することにより、より実践的な教育に力を注ぐ環境が整う。

平成14年	大村ファッショナカレッジを開校。トータルビューティーの総合学校を目指して、美容・メイクに続き、ファッションの分野に進出する。 合わせて大村美容専門学校を定員増。
平成15年	大村ファッショナカレッジを大村ファッショナデザイン専門学校に校名変更。
平成17年	大村美容専門学校を定員増。 合わせて、校舎を新築。(3号館)
平成21年	役員の改選により、学校法人設立当初から理事長を務めてきた大村統に代わり、4月1日より大村陽之介が理事長に就任。(大村統は会長に就任をし、理事に再任) 合わせて、理事・監事においても大幅に人員を改選。  メイクアップ専科内にエステティックコースを設置。
平成22年	トータルビューティーの総合学校としての教育環境を今まで以上に充実させるため、大村美容専門学校と大村ファッショナデザイン専門学校を統合する。 合わせて、福岡大村美容ファッショナ専門学校に校名変更。  美容の3年制学科として、トップスタイリスト科を設置。 メイクアップ専科エステティックコースを独立させ、エステティック科を設置。 メイクアップ専科をメイクアップ科に学科名変更。
平成26年	トップスタイリスト科を2年制に変更し、その修了者を対象とした上級学科として、トップスタイリスト専攻科(1年制)を設置。 メイクアップ科とエステティック科を統合して、メイク・エステ科を設置。 ファッションクリエイター科(3年制)を設置。  美容科及びファッション科が職業実践専門課程として認定を受ける。
平成29年	トップスタイリスト科およびメイク・エステ科が職業実践専門課程として認定を受ける。
平成30年	商業実務専門課程グローバルビジネス科を設置。 メイク・エステ科をメイクアップ科に名称変更。 ファッションクリエイター科が職業実践専門課程として認定を受ける。
令和 5年	大村グローバルビジネス専門学校を開校。 大村美容ファッショナ専門学校グローバルビジネス科の募集を停止。

■設置する学校・学科および学生数の状況

大村美容ファッション専門学校

2025.5.1 現在

学科名	修業年限	入学定員	総定員	1年生	2年生	3年生	合計
美容科	2	120	240	118	108		226
トップスタイリスト科	2	40	80	30	22		52
ヘアメイクアップアーティスト科	3	30	90	20	0	0	20
トップスタイリスト専攻科	1	40	40	25			25
メイクアップ科	2	60	120	31	43		74
ファッション科	2	40	80	27	37		64
ファッションクリエイター科	3	40	120	29	23	9	61
合 計		370	770	280	233	9	522

大村グローバルビジネス専門学校

2025.5.1 現在

学科名	修業年限	入学定員	総定員	1年生	2年生	3年生	合計
グローバルビジネス科	2	400	800	399	366		765
合 計		400	800	399	366		765

■役員の概要

2025.5.1 現在

区分	氏名	勤務先	勤務先役職
理事	大村 陽之介	(学)大村文化学園	理事長
	萩野 清美	(学)大村文化学園	校長(美容ファッション)
	高木 進一	(株)ダリア	代表取締役
	吉次 正利	吉次商事(株)	代表取締役
	大村 千由美		
監事	中島 彰彦	(株)アソウ・ヒューマニーセンター	代表取締役
	増田 誠司	(株)増屋	代表取締役

	定数	現在数
理事	5	5
監事	2	2
役員 合計	7	7

### ■評議員の概要

2025.5.1 現在

氏名	勤務先	勤務先役職
西村 俊郎	(学)大村文化学園	校長(グローバルビジネス)
藤 規子	(学)大村文化学園	ML 美容室 責任者
富永 太郎	福岡倉庫(株)	代表取締役
松尾 龍亮	(株)新日本空調サービス	代表取締役
吉村 和矩	今宿産業(株)	代表取締役
隈本 達也	(有)ダム	代表取締役

定数	現在数
6	6

### ■教職員の概要

2025.5.1 現在

キャビネット メンバー	理事長	大村陽之介	1	4
	校長(美容ファッション)	萩野清美	1	
	校長(グローバルビジネス)	西村俊郎	1	
	事務長代理	吉田公包	1	
教 員	本務	37	93	
	兼務	56		
学校職員	本務	15	15	
	兼務	0		
法人職員	本務	5	6	
	兼務	1		
法人合計			118	

## II 事業の概要

### ■事業経過

#### 1. 学生募集目標について

- ① 美容科・メイクアップ科・ファッショングループ科・トップスタイリスト科・ファッショングルエイター科・ヘアメイクアップアーティスト科合計の入学目標330名に対し、入学25

5名で未達成でした。

早期進路決定が進んでおり、1・2年生で決定していく学生さんも多く、3年生のみをターゲットの中心とした広報活動が上手くいかなかつたことが原因と考えられる。

このことを次年度に活かす為、1・2年生の対応を明確に取り入れ、目の前の入学数だけでなく、その後に将来に続く広報活動を継続できるよう、広報メンバーに新たに20代を迎え入れ、新体制を整えています。

- ② グローバルビジネス科は目標400名に対して、入学399名でほぼ達成できました。

コロナ禍の影響による日本語学校の卒業生減少から解放され、多くの入学生を迎える事が出来ました。

現在の広報活動も順調に推移していますが、それに思い上がることなく学生満足度の高い学校を目指す努力を続けていきます。

## 2. 教育課程の改革と改善について

- ① オオムラプロジェクト「不易流行」を実践しています。

教育内容の効率化により授業時間の短縮を図り、短縮分の時間を選択・課外授業の整備や部活の強化に充てて、センスを育てる学校としての体制を整えました。

また、これに伴い必要となる校舎設備についても整えています。

- ② 学生の主体性を育む教育(アクティブラーニング)を充実させています。

- ③ 自主性を伸ばす教育の強化として、各科の専門分野を学べる、好きな分野をとことん学べる、美容・メイクアップ・ファッショングの学科を持つ大村の特色を活かせるカリキュラムの構築を行いました。

- ④ 昨年に引き続きキャリア教育において、「生きる力」としての職業意識の醸成を図りました。

## 3. 教育目標達成の為の方針について

- ① 1年次の退学率低減に向けて「生活指導」を強化します。

- ② 美容師国家試験合格率向上のために、特に学科科目対策を強化します。

- ③ グローバルビジネス科は、日本の常識の理解と実践、人格教育に力を入れます。

- ④ 全学科でインターンシップの機会を増やし、産学共同教育の更なる強化を計ります。

- ⑤ 近隣活動や外部コンテストへの参加を増やし、教育の質に磨きをかけます。

- ⑥ ファシリテーター(2年生)を活用し、先輩と後輩が気軽に話せる環境を整えます。

## 4. 管理部門の目標管理について

- ① 学校試算の有効活用を期して、銀行対策、不動産対策を行いました。

- ② 予算委員会、予算執行管理の精緻化で、人件費・管理経費の削減を徹底しました。
- ③ 教職員の健康管理、福利厚生情報提供、働きやすい環境整備を図りました。

### ■施設等の概要

#### ① 土地

所在地	用途	m <sup>2</sup> 数	摘要
福岡市中央区黒門 2-6	校地	1,051.26	大村美容ファッション専門学校 校地
福岡市中央区黒門 4-41	校地	460.57	大村グローバルビジネス専門学校 校地
福岡市中央区黒門 4-41	校地	358.58	大村グローバルビジネス専門学校 校地
福岡市中央区唐人町 1-2-8		109.30	賃貸物件として外部に貸し出し
合計		1,621.13	

#### ② 建物

所在地	用途	m <sup>2</sup> 数	摘要
福岡市中央区黒門 2-6	校舎	2683.96	大村美容ファッション専門学校 1・2号館
福岡市中央区黒門 2-6	校舎	1485.57	大村美容ファッション専門学校 3号館
福岡市中央区黒門 4-41	校舎	1035.12	大村グローバルビジネス専門学校 4号館
福岡市中央区黒門 4-41	校舎	682.9	大村グローバルビジネス専門学校 5号館
福岡市中央区唐人町 1-2-8		238.86	賃貸物件として外部に貸し出し
合計		5443.51	

## III 財務の概要

### ■収支計算書、貸借対照表

#### ① 資金収支計算書

科目	令和6年度
学生生徒等納付金収入	1,163,857,660
手数料収入	31,567,900
補助金収入	69,312,484
資産売却収入	43,997,718
付随事業・収益事業収入	57,514,705
受取利息・配当金収入	1,912,934

雑収入	4,258,565
借入金等収入	800,000,000
前受金収入	798,777,890
その他の収入	341,602,410
資金収入調整勘定	△ 696,597,560
前年度繰越支払資金	471,547,866
収入の部 合 計	3,087,752,572
人件費支出	385,316,782
教育研究経費支出	551,920,156
管理経費支出	214,311,064
借入金等利息支出	8,945,489
雑損失支出	714,515
借入金等返済支出	591,004,000
施設関係支出	303,624,088
設備関係支出	58,199,200
資産運用支出	41,469,859
その他の支出	492,955,185
資金支出調整勘定	△ 193,999,452
翌年度繰越支払資金	632,291,686
支出の部 合 計	3,086,752,572

## ② 事業活動収支計算書

科目	令和6年度
学生生徒等納付金	1,163,857,660
手数料	31,567,900
経常費等補助金	69,312,484
付隨事業収入	57,514,705
雑収入	4,258,565
教育活動収入計	1,326,511,314
人件費	385,316,782
教育研究経費	595,225,201
管理経費	219,574,080
徴収不能額等	0
教育活動支出計	1,200,116,063
教育活動収支差額	126,395,251
受取利息・配当金	1,912,934
教育活動外収入計	1,912,934
借入金等利息	8,945,489
教育活動外支出計	8,945,489

教育活動外収支差額	△ 7,032,555
経常収支差額	119,362,696
資産売却差額	8,531,233
特別収入計	8,531,233
資産処分差額	201,876
雑損失	714,515
特別支出計	916,391
特別収支差額	7,614,842
基本金組入前当年度収支差額	126,977,538
基本金組入額合計	△ 89,686,960
当年度収支差額	37,290,578
前年度繰越収支差額	△ 1,006,722,237
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	△ 969,431,659

### ③ 貸借対照表

科目	令和6年度
固定資産	3,137,402,404
流動資産	822,549,314
資産の部合計	3,959,951,718
固定負債	761,414,000
流動負債	1,120,792,506
負債の部合計	1,882,206,506
基本金	3,047,176,871
繰越収支差額	△ 969,431,659
純資産の部合計	2,077,745,212
負債及び純資産の部合計	3,959,951,718

## ■収支計算書、貸借対照表の状況

### ① 資金収支計算書

今年度は入学生の推移も安定し、また経費支出においても予算内での管理ができました。しかし、次年度の入学生数が減少するということで前受金の減少があり、結果、翌年度繰越支払資金は前年度末から減少しています。

### ② 事業活動収支計算書

収入が安定し、かつ支出の予算管理徹底から収支差額はプラスの維持となりました。コロナの制限がなくなりつつありますので、今後、教育活動が再びコロナ前のように活発になっていきます。予算管理の徹底を継続してまいります。

### ③ 貸借対照表の状況

昨年度、大きな校舎改装工事を行い、それに伴う長期借入金が増加しています。グローバルビジネス校の開校に関しては既存の建物を使っていますので、資産の変動に大きな影響はありません。